

「3 年・方位の探究 (8)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

透明半球を利用した、「地磁気地球儀づくり」は、子どもたちにとっても、私自身にとっても、初めての挑戦である。こうした活動の中には、常に「小さな知の渦」が生まれ、それが「新しい知との出会い」につながってゆくように思う。子どもたちの活動を観察していた私自身もそう感じた。



子どもたちが一番苦労していたのは、向い合せた 2 つの透明半球の中央に、棒磁石をいかにうまく「浮かせるか」という点である。最初は、どの研究所(班)も、細い針金(エナメル線)を使って試していた。



これは、苦闘 30 分の末に、やっと出来上がった「地磁気地球儀」である。残念ながら、針金がたわんでし

まい、棒磁石が地軸の中心からはずれてしまっている。



しかし、子どもたちはそんなことはお構いなし。全員で整列して「先生、めでたく磁石の地球ができました!」と声をそろえて報告しにきた。「めでたく」・・・まさにその通りの図であった。球体の底に敷いてあるのは、机上から転落を防止する為の、アルミホイルである。これもある研究所(班)が出したアイデアで、あっという間に、クラス全体に広がった。



方位磁針は、一人一個ずつ持っている。さっそく、完成したばかりの「地磁気地球儀」のいろいろな場所で「方位」を確かめる姿が見られた。上写真では、北極(S 極=緑)と南極(N 極=赤)を逆に置いている。「え〜と、北極がここだから、日本はこのへんかなあ?」「文京区はもうちょっと下だよ、確か」なんて言いながら、実に楽しそうだった。(つづく)